

科目名	Grammar Clinic I (前期 30 時間 (90 分/コマ)) 必修 ・選択
担当教員	大八木 香織 (実務経験: 名古屋国際サービス株式会社にて 3 年間国際線旅客ハンドリング業務に携わる。)
学科・学年	英語科 1 年
講義概要 (到達目標 及び 授業の方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・英文解釈や英作文はもちろん、英会話にも必要不可欠である「語彙」や「文法」を徹底的に再確認し、さらなる英語力の向上を目指します。 ・毎回の単語テストにより、語彙を強化し、さらに幅広い英文に対応できる力をつけます。(講義)
学修内容 (授業計画) 90 分/コマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション テキストの説明、授業の進め方 2. Unit 1 並び方のルール 英文の構造と語順① 3. Unit 2 語句や節の繋がり 英文の構造と語順② 4. Unit 3 be 動詞と一般動詞 SVC/SV0/SV 5. Unit 4 一般動詞の使い方 SV00/SV0C 6. EPIC 7. Unit 5 「～される」を表す表現 態 8. Unit 6 英語の時間感覚① 現在形、現在進行形、過去形、未来表現 9. Unit 7 英語の時間感覚② 現在完了形 10. Unit 8 否定 様々な否定表現 11. Unit 9 前置詞 基本的な前置詞のイメージ 12. Unit 10 動詞の意味を補助する語 助動詞① 13. 後期末試験 14. Unit 11 動詞の意味を補助する語 助動詞① 15. まとめ
使用テキスト ・教材等	Make a fresh start with English
成績評価方法 及び 基準	期末試験: 80 点、授業参加内容・課題、小テスト等: 20 点 計 100 点満点 60 点以上を合格とする。
授業時間外 に必要な 学修内容	授業前には、単語のテストの準備。各 Unit の新出単語のチェック。 授業後には復習を必ず行う。
履修に 当たっての 留意点	授業には必ず辞書を持参。

科目名	Grammar Clinic I (後期 30 時間 (90 分/コマ)) 必修 ・選択
担当教員	大八木 香織 (実務経験: 名古屋国際サービス株式会社にて 3 年間国際線旅客ハンドリング業務に携わる。)
学科・学年	英語科 1 年
講義概要 (到達目標 及び 授業の方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・英文解釈や英作文はもちろん、英会話にも必要不可欠である「語彙」や「文法」を徹底的に再確認し、さらなる英語力の向上を目指します。 ・毎回の単語テストにより、語彙を強化し、さらに幅広い英文に対応できる力をつけます。(講義)
学修内容 (授業計画) 90 分/コマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. Unit 12 名詞と冠詞 2. Unit 13 名詞の働きをする語句① 動名詞 3. Unit 14 名詞の働きをする語句② 不定詞の名詞的用法 4. EPIC 5. Unit 15 使役動詞と知覚動詞 6. Unit 16 形容詞の働きをする語句と節① 不定詞の形容詞的用法 7. Unit 17 形容詞の働きをする語句と節② 現在分詞と過去分詞 8. Unit 18 形容詞の働きをする語句と節③ 関係代名詞 9. Unit 19 形容詞の働きをする語句と節④ 関係副詞 10. Unit 20 副詞の働きをする語句と節 不定詞の副詞的用法 11. Unit 21 比較① 原級と比較級 12. Unit 22 比較② 最上級と慣用表現 13. Unit 23 仮定法 14. EPIC 15. 後期末試験
使用テキスト ・教材等	Make a fresh start with English
成績評価方法 及び 基準	期末試験: 80 点、授業参加内容・課題、小テスト等: 20 点 計 100 点満点 60 点以上を合格とする。
授業時間外 に必要な 学修内容	授業前には、単語のテストの準備。各 Unit の新出単語のチェック。 授業後には復習を必ず行う。
履修に 当たっての 留意点	授業には必ず辞書を持参。

科目名	児童英語教育 I (前期 30 時間 (90 分/コマ)) 必修 ・選択
担当教員	長野 よしみ (実務経験: (株)スマイルイングリッシュクラブ等で 30 年間教務に携わる)
学科・学年	英語科 1 年
講義概要 (到達目標 及び 授業の方法)	英語学科で学ぶ学生を対象として、過去に学んだ知識ではなく世界で通用する人になるため、英語力・自分の頭で考え、自分の関心に基づいて学び続ける力(知力)、他者の学びに貢献する力をつける。さらに児童に対しどのような考えで英語教育を行うか、具体的な指導法と合わせて学び、習得する。 また日本の児童に人気のある英語の歌を取り入れ将来親になったときに役立つ歌の背景も学べるように配慮していく。児童英語教育に携わっている経験をもとに、季節の英語イベントなどを授業に取り入れその文化も一緒に教える。(演習)
学修内容 (授業計画) 90 分/コマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語力が伸びる子と伸びない子の違い / Tomorrow 2. 英語を自分で学ぶ子どもに / Ob-La-Di, Ob-La-Da 3. 英語を自分で学ぶ子どもに / Do Re Mi 4. 英語の頭を授ける / The Lion Sleeps Tonight 5. 英語の頭を授ける / Humpty Dumpty 6. 英語で終わらせない / Edelweiss 7. 英語で終わらせない / Over The Rainbow 8. 幼稚な英語は損 / Puff, the Magic Dragon 9. 本物の英語力 / Twinkle, Twinkle, Little Star 10. 学習方法は時期によって変わる / My Favorite Things 11. 通常の英語学習で頭のいい子は育つ / Singin' in the Rain 12. 子どもは親の学ぶ姿勢を見ている / Take Me Home, Country Roads 13. 英語が好きな子を育てる環境づくり / Grandfather's Clock 14. 絵本紹介 15. Presentation 発表
使用テキスト ・教材等	ほんとうに頭がよくなる世界最高の子ども英語、頭のいい子が育つ英語の歌45選
成績評価方法 及び 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 割以上の出席 ・ 口頭試験の評価を 80 点、平常点 20 点の合計 100 点満点のうち 60 点以上 上記、いずれをも満たした場合を合格とする。
授業時間外 に必要な 学修内容	教材のCDを聞いて歌を歌えるように覚えてくる。
履修に 当たっての 留意点	将来教える側に立つことを意識して質疑応答に積極的に質問すること。

科目名	児童英語教育 I (後期 30 時間 (90 分/コマ)) 必修 ・選択
担当教員	長野 よしみ (実務経験: (株)スマイルイングリッシュクラブ等で 30 年間教務に携わる)
学科・学年	英語科 1 年
講義概要 (到達目標 及び 授業の方法)	英語学科で学ぶ学生を対象として、過去に学んだ知識ではなく世界で通用する人になるため、英語力・自分の頭で考え、自分の関心に基づいて学び続ける力(知力)、他者の学びに貢献する力をつける。さらに児童に対しどのような考えで英語教育を行うか、具体的な指導法と合わせて学び、習得する。 また日本の児童に人気のある英語の歌を取り入れ将来親になったときに役立つ歌の背景も学べるように配慮していく。児童英語教育に携わっている経験をもとに、季節の英語イベントなどを授業に取り入れその文化も一緒に教える。(演習)
学修内容 (授業計画) 90 分/コマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遊んで好きになる① (身体ごと・声かけ) / Little Peter Rabbit 他 2. 遊んで好きになる② (親の声・ゲーム) / Today Is Monday他 3. 英語が気になる耳になる① / Under the Spreading Chestnut Tree他 4. 英語が気になる耳になる② / Mary Had a Little Lamb他 5. 英語にも文字がある① / Yankee Doodle他 6. 英語にも文字がある② / The Bear他 7. Halloweenについて / Hokey Pokey他 8. 英語に自信を持つ最高の生活習慣 / Everyone Is Special他 9. 音と文字を結ぶ / The Alphabet他 10. コンテンツを楽しむ / How Do You Do? 他 11. ルールを理解する / Good Morning to You他 12. 英語で考える力を身につける / Sunday, Monday, Tuesday他 13. 前文法をマスターする / Ten Little Indians他 14. 知性と教養を磨く / If You' re Happy and You Know It他 15. Presentation 発表
使用テキスト ・教材等	ほんとうに頭がよくなる世界最高の子ども英語、頭のいい子が育つ英語の歌45選
成績評価方法 及び 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8 割以上の出席 ・ 口頭試験の評価を80点、平常点20点の合計100点満点のうち60点以上 上記、いずれをも満たした場合を合格とする。
授業時間外 に必要な 学修内容	教材のCDを聞いて歌を歌えるように覚えてくる。
履修に 当たっての 留意点	将来教える側に立つことを意識して質疑応答に積極的に質問すること。

科目名	児童英語教育Ⅱ（前期 30 時間（90 分/コマ）） 必修 ・選択
担当教員	田邊 美由紀（実務経験：（株）ジェイアール東海ツアーズ営業部にて約4年、その後、AEON Amity, ECC 外語学院などで教務に携わる。現在（株）えいごラボ代表）
学科・学年	英語科2年
講義概要 （到達目標 及び 授業の方法）	「J-Shine 認定 小学校英語指導者資格」の指導者育成認定団体、認定科目として、授業の計画、展開方法を小学校学習指導要領、その他各教育現場に応じて、実例に基づき指導。講義内容の充実、実技指導時間の拡充を図り、校内での英語科目と合わせて、受講生の英語力を高め、各教育現場、教授スタイルに柔軟に対応していける質の高い指導者の育成を目指す。既定の推薦規準を満たした者には、小学校英語指導者資格の準資格を付与し、50 時間の実地研修（インターンシップ）を行った者には、小学校英語指導者資格の正資格を与え、卒業時に認定する。
学修内容 （授業計画） 90 分/コマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語教育について（児童英語教育の現状と今後） 2. 言語習得についての基礎知識 1（学習方法の提案） 3. 言語習得についての基礎知識 2 4. 言語習得についての基礎知識 3 5. 児童英語の指導法 1（レッスンプランの必要性と、立て方の基本） 6. 児童英語の指導法 2（アクティビティの研究） 7. 児童英語の指導法 3（子供の心理・特性の研究：子供と大人の違い） 8. 児童英語の指導法 4（発話量の確保、悲しい子供を作らないルール設定の仕方） 9. 児童英語の指導法 5（デモンストレーションレッスン課題発表） 10. 児童英語の指導法 6（レッスンプラン作り/立案・推敲・仕上げ） 11. 児童英語の指導法 7（教材作り） 12. 児童英語の指導法 8（グループデモンストレーション） 13. 児童英語の指導法 9（最終発表 *実技試験） 14. 児童英語の指導法 10（フィードバック、総評など） 15. 前期のまとめ
使用テキスト ・教材等	<p>小学校英語 はじめる教科書(mpi 松香フォニックス出版)</p> <p>LONGMAN CHILDREN' S PICTURE DICTIONARY（ピアソン・ジャパン出版）</p> <p>New Let' s Sing Together（アプリコット出版）、Phonics Workbook（えいごラボ制作）</p> <p>New Horizon Elementary Picture Dictionary/学校図書</p>
成績評価方法 及び 基準	実技試験（模擬レッスン）による評価 50 点、実技試験におけるプリント提出 30 点、平常点 20 点により評価、60 点以上を合格とする。
授業時間外 に必要な 学修内容	英語力だけでなく、英会話力の向上にも積極的に取り組んで欲しい。同時に英検 2 級、TOEIC600 点以上を取得すること。
履修に 当たっての 留意点	児童英語講師を目指すものとして、学習方法の改善、考案や英語力向上のために何ができるかを常に意識すること

科目名	児童英語教育Ⅱ（後期 30 時間（90 分/コマ）） 必修 ・選択
担当教員	田邊 美由紀（実務経験：（株）ジェイアール東海ツアーズ営業部にて約4年、その後、AEON Amity, ECC 外語学院などで教務に携わる。現在（株）えいごラボ代表）
学科・学年	英語科 2 年
講義概要 （到達目標 及び 授業の方法）	「J-Shine 認定 小学校英語指導者資格」の指導者育成認定団体、認定科目として、授業の計画、展開方法を小学校学習指導要領、その他各教育現場に応じて、実例に基づき指導。講義内容の充実、実技指導時間の拡充を図り、校内での英語科目と合わせて、受講生の英語力を高め、各教育現場、教授スタイルに柔軟に対応していける質の高い指導者の育成を目指す。既定の推薦規準を満たした者には、小学校英語指導者資格の準資格を付与し、50 時間の実地研修（インターンシップ）を行った者には、小学校英語指導者資格の正資格を与えることとする。
学修内容 （授業計画） 90 分/コマ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童英語の指導法 11（子供の叱り方、誉め方研究） 2. 児童英語の指導法 12（子供の興味の対象の研究） 3. 児童英語の指導法 13（小人数クラスと大人数クラス） 4. 児童英語の指導法 14（モノリンガルクラスとバイリンガルクラス） 5. 児童英語の指導法 15（具体的なアクティビティと注意点） 6. 児童英語の指導法 16（フォニックスの指導法） 7. 児童英語の指導法 17（テキスト以外のカリキュラムの組み方） 8. 児童英語の指導法 18（デモンストレーションレッスン課題発表） 9. 児童英語の指導法 19（レッスンプラン作り/立案・推敲・仕上げ） 10. 児童英語の指導法 20（グループデモンストレーション） 11. 実技試験（最終発表、レッスンプラン提出） 12. 実技試験のフィードバック、総評とインターンシップについて 13. 教材の選定方法（学習目標・対象年齢・使いやすさ・教育方針・利点欠点など） 14. 保護者対応・就職試験対策について 15. 後期のまとめ
使用テキスト ・教材等	<p>小学校英語 はじめる教科書 (mpi 松香フォニックス出版)</p> <p>LONGMAN CHILDREN' S PICTURE DICTIONARY (ピアソン・ジャパン出版)</p> <p>New Let' s Sing Together (アプリコット出版、Phonics Workbook (えいごラボ制作))</p> <p>New Horizon Elementary Picture Dictionary/学校図書</p>
成績評価方法 及び 基準	実技試験（模擬レッスン）による評価 50 点、実技試験におけるプリント提出 30 点、平常点 20 点により評価、60 点以上を合格とする。
授業時間外 に必要な 学修内容	英語力だけでなく、英会話力の向上にも積極的に取り組んで欲しい。同時に英検 2 級、TOEIC600 点以上を取得すること。
履修に 当たっての 留意点	児童英語講師を目指すものとして、学習方法の改善、考案や英語力向上のために何ができるかを常に意識すること